

- 問1 日本銀行が公開市場操作において、民間金融機関から国債を買い入れる政策を実施した場合、その後の経済への影響として期待される因果関係の説明として正しいものはどれですか。 (2024年 香川県公立入試 類似)

1. 市場の通貨量が増えることで、民間の利子率（金利）が低下し、企業の設備投資が活発になる。

2. 市場の通貨量が減ることで、通貨の価値が上がり、輸入品の価格が下がることで消費が拡大する。

3. 市場の通貨量が減ることで、物価の上昇が抑えられ、企業の過剰な在庫投資が抑制される。

4. 市場の通貨量が増えることで、民間の利子率（金利）が上昇し、国民の預金意欲が高まる。
- 問2 景気の過熱や物価の上昇を抑えるために日本銀行が行う「公開市場操作」において、保有する国債などを一般の金融機関に売却し、市場に流通する通貨量を減少させる操作を何といいますか。 (2026年 栃木県公立入試 類似)

1. 預金準備率操作

2. 公定歩合操作

3. 売りオペレーション

4. 買いオペレーション
- 問3 日本経済において、物価が持続的に下落するデフレーションが進行している時期の経済状況や政策について述べたものとして、正しい記述はどれですか。 (2017年 茨城県公立入試 類似)

1. 物価の下落により貨幣の価値が相対的に上がるが、企業の収益悪化や賃金の低下を招き、さらなる景気の冷え込みにつながりやすい。

2. 通貨の価値が下がり続ける現象であるため、日本銀行は公開市場操作を通じて市場の通貨量を増やすことで、物価の下落を食い止める。

3. 需要が供給を大幅に上回っているために物価が下落しており、日本銀行は通貨量を減らすために「売りオペレーション」を実施する。

4. 物価の下落は消費者の購買力を高めて景気を浮揚させるため、政府は増税を行って市場の通貨量を回収し、経済の安定を図る。
- 問4 日本銀行が景気回復を目指して実施する「買いオペレーション」において、国債の売上が市場の金利や企業の活動に与える影響として正しいものはどれですか。 (2018年 大分県公立入試 類似)

1. 日本銀行が国債を売り出すことで、市場の通貨量が不足し、金利が上がって景気の過熱が抑制される。

2. 日本銀行が国債を売り出すことで、銀行の持つ資金が増え、企業の倒産を防ぐ効果がある。

3. 日本銀行が国債を買い取ることで、市場の通貨量が減り、物価の上昇を抑える効果がある。

4. 日本銀行が国債を買い取ることで、銀行の貸し出し資金に余裕ができ、金利が下がって企業の設備投資が促される。
- 問5 日本銀行が「売りオペレーション」を行った際に、市場の金利や経済活動に与える影響として正しい組み合わせはどれですか。 (2022年 静岡県公立入試 類似)

1. 市場の通貨量が減少し、金利が低下することで、物価の下落がさらに加速する。

2. 市場の通貨量が増加し、金利が低下することで、企業や家計の資金借入が活発になる。

3. 市場の通貨量が減少し、金利が上昇することで、企業や家計の資金借入が抑制される。

4. 市場の通貨量が増加し、金利が上昇することで、輸出企業の国際競争力が高まる。
- 問6 資金の供給手である家計と、資金の需要手である企業の間で銀行が果たす役割に関連して、銀行が安定的な経営を行うための利子の仕組みについて述べた文として、背景や理由を含めて説明したものを選びなさい。 (2023年 岐阜県公立入試 類似)

1. 銀行は貸し倒れのリスクを負うため、貸出先から受け取る利子を預金者に支払う利子よりも多く受け取る必要がある。

2. 預金者が銀行に資金を預ける際の利子を貸出利子より高くすることで、社会全体の貯蓄額を増やす仕組みがとられている。

3. 中央銀行がすべての利子率を決定しているため、民間銀行は利子の差額ではなく国からの補助金によって経営されている。

4. 銀行の収益は株式投資の配当のみで構成されるため、預金利子と貸出利子を同額に設定して家計を支援している。
- 問7 日本銀行が「銀行の銀行」としての役割を果たす際、一般の銀行（民間金融機関）との間で行われる具体的な業務の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 埼玉県公立入試 類似)

1. 民間金融機関が保有する資金が不足した際などに、その機関に対して資金の貸し出しを行う。

2. 民間金融機関が倒産しないよう、一般の個人や企業に対して日本銀行が直接融資を行う。

3. 民間金融機関に代わって、所得税などの税金の収納や、年金の支払いといった国の事務を行う。

4. 民間金融機関からの依頼を受けて、新しい一万円札や五千円札などの日本銀行券を発行する。
- 問8 資金の貸し借りが行われる金融市場において、元金に対する利子の割合を示す言葉として正しいものはどれですか。 (2020年 神奈川県公立入試 類似)

1. 為替相場

2. 金利

3. 物価上昇率

4. 自己資本比率
- 問9 個人が資金を運用する手段のうち、銀行などの金融機関が資金の貸し手と借り手の間に入って資金を融通する「間接金融」に該当するものはどれですか。 (2026年 山梨県公立入試 類似)

1. 銀行への預金

2. 企業の株式の購入

3. ふるさと納税による寄付

4. 地方自治体が発行する地方債の購入
- 問10 「お金に余裕がある人」が銀行へ預金し、銀行が「お金を必要としている企業」へ貸し付けを行う経済活動において、利子の関係について述べた次の文のうち、正しいものはどれですか。 (2022年 高知県公立入試 類似)

1. 景気を刺激するために、銀行は預金利子を貸出利子よりも高く設定するのが一般的である。

2. 借り手が銀行に支払う貸出利子は、銀行が預金者に支払う預金利子よりも常に低く抑えられている。

3. 預金利子と貸出利子は法律によって同額に定められており、銀行は手数料のみで利益を得る。

4. 銀行の利益を確保するため、貸出利子は預金利子よりも高く設定される。
- 問11 家計などの余剰資金を銀行が預かり、それを企業などの資金不足の主体に貸し出す「間接金融」の仕組みにおいて、銀行が預金利子率を貸し出し利子率よりも低く設定している理由として、最もふさわしい背景はどれですか。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)

1. 預金者が銀行に資金を預けること自体が投資であり、元本保証の対価として利子を低く抑える契約が一般的だから。

2. 不景気の際に、企業が資金を借りやすくするために、預金者から徴収した手数料を利子補填に回しているため。

3. 日本銀行による金融政策により、すべての銀行の預金利子率を貸し出し利子率より下げることが法律で強制されているため。

4. 預金者への利子支払いを抑え、貸し出しによる利息収入との差額を銀行の運営費用や利益に充てるため。
- 問12 家計から預かった預金を、銀行などの金融機関が仲介役となって企業に貸し出すことで、企業が事業活動に必要な資金を調達する仕組みを何といいますか。 (2024年 福岡県公立入試 類似)

1. 信用創造

2. 間接金融

3. 直接金融

4. 公開市場操作
- 問13 一般的な銀行（普通銀行）の収益の仕組みについて述べたものとして、最も適切な説明はどれですか。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)

1. 預金利子率を貸し出し利子率よりも低く設定し、その差額を「利ざや」として収益にする。

2. 中央銀行からの補助金によって、預金者に支払う利子と企業から受け取る利子の不足分を補う。

3. 貸し出し利子率を預金利子率よりも低く設定し、その差額を「利ざや」として収益にする。

4. 預金者から手数料を受け取り、それを全額、企業への貸し出し資金に充てることで収益を上げる。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 市場の通貨量が増えることで、民間の利子率（金利）が低下し、企業の設備投資が活発になる。	日本銀行が国債を買い入れると、民間金融機関が自由に使える資金が増加します。これにより、市場では資金の供給が需要を上回る形となり、利子率（金利）が低下します。金利が下がると、企業は低い利息負担で銀行から資金を借りやすくなるため、工場を建てたり機械を買ったりする設備投資が促進され、景気を回復させる効果が期待されます。
問2	答え 3 売りオペレーション	景気が良すぎて物価が上がりすぎるのを防ぐため、日本銀行は市場の通貨量を減らそうとします。日本銀行が国債を金融機関に売ると、その代金が民間から日本銀行に支払われるため、世の中に出回る通貨の量が減少します。この一連の流れを公開市場操作の「売りオペレーション」と呼びます。
問3	答え 1 物価の下落により貨幣の価値が相対的に上がるが、企業の収益悪化や賃金の低下を招き、さらなる景気の冷え込みにつながりやすい。	デフレーションの状況下では、物価が下がるため貨幣の価値は相対的に高まりますが、一方で企業の売上減少や在庫の増加を招きます。その結果、労働者の賃金が下がったり失業者が増えたりして消費がさらに落ち込む「デフレスパイラル」という悪循環に陥るリスクがあります。この不況を打開するため、日本銀行は公開市場操作によって市場に資金を供給し、通貨量を増やす金融緩和政策をとるのが一般的です。
問4	答え 4 日本銀行が国債を買い取ることで、銀行の貸し出し資金に余裕ができ、金利が下がって企業の設備投資が促される。	日本銀行が国債を買うことで市場の通貨量が増加すると、お金の供給が需要を上回る形となり、一般的に金利は低下します。金利が下がると、企業は事業を拡大するための資金を借りやすくなり、設備投資や雇用が生まれます。このように、通貨量の調整を通じて民間経済の意思決定に働きかけるのが公開市場操作の狙いです。
問5	答え 3 市場の通貨量が減少し、金利が上昇することで、企業や家計の資金借入が抑制される。	売りオペレーションによって民間銀行の資金が日本銀行に吸収されると、銀行が貸し出しに回せるお金が少なくなります。希少となった資金の「価格」にあたる金利は上昇し、高い金利を嫌って企業や家計はお金を借りにくくなります。これにより、消費や投資といった経済活動が落ち着き、物価の上昇を抑える方向に働きます。
問6	答え 1 銀行は貸し倒れのリスクを負うため、貸出先から受け取る利子を預金者に支払う利子よりも多く受け取る必要がある。	銀行は預金者に対して預金を払い戻す義務を負う一方で、企業への貸し出しには返済が滞るリスク（貸し倒れリスク）が伴います。そのため、貸出先から受け取る利子を高く設定することで、リスクへの備えや業務運営に必要なコストをまかなっています。このように、預金利子と貸出利子の差額を収益の柱とする仕組みによって、銀行の金融仲介機能が維持されています。
問7	答え 1 民間金融機関が保有する資金が不足した際などに、その機関に対して資金の貸し出しを行う。	日本銀行は、一般の銀行が一時的な資金不足に陥った際に「資金の貸し出し」を行ったり、各銀行が余剰資金を預けるための「預金の受け入れ」口座を提供したりします。これにより、民間金融機関同士のお金のやり取り（決済）がスムーズに進むよう調整しています。国の事務を行うのは「政府の銀行」、紙幣を発行するのは「発券銀行」としての役割であり、混同しないよう注意が必要です。
問8	答え 2 金利	借りたお金（元金）に対して、どの程度の割合で利子を支払うかを数値で表したものが金利です。一般的に「利回り」や「利率」とも呼ばれ、景気の状態や日本銀行の政策などによって変動します。金利が高くなると借り手の負担が増え、低くなると借りやすくなるため、経済活動に大きな影響を与えます。
問9	答え 1 銀行への預金	銀行への預金は、預けられたお金を銀行が自身の判断で企業などに貸し出すため、貸し手と借り手の間に金融機関が介在する間接金融の代表例です。一方、株式や債券の購入は、資金の出し手が直接、発行元（企業や自治体）に資金を供給するため、直接金融に分類されます。
問10	答え 4 銀行の利益を確保するため、貸出利子は預金利子よりも高く設定される。	銀行の主な利益の源泉は、預金と貸し出しの利子率の差にあります。資金の供給者（預金者）に支払う利子よりも、資金の需要者（借り手）から徴収する利子を高くすることで、銀行は組織を維持・運営するための利益を得ることができます。もし預金利子の方が高い場合、銀行は逆ざやと呼ばれる赤字状態に陥ってしまいます。
問11	答え 4 預金者への利子支払いを抑え、貸し出しによる利息収入との差額を銀行の運営費用や利益に充てるため。	銀行は金融仲介機関として、多くの預金者から小口の資金を集め、それをまとめて企業などに大口で貸し出します。銀行が健全に経営を続け、店舗の維持や従業員の給与、システムの管理を行うためには、収益を上げる必要があります。貸し出した際の利息収入が、預金者に支払う利息を上回るように設定することで、その差額が銀行の経費や利益を支える原資となります。
問12	答え 2 間接金融	家計（貸し手）と企業（借り手）の間に銀行などの金融機関が介在し、預金という形をとって間接的に資金が流れるため、このように呼ばれます。貸し手である家計は、資金がどの企業に貸し出されるかを直接決定しない点が特徴です。
問13	答え 1 預金利子率を貸し出し利子率よりも低く設定し、その差額を「利ざや」として収益にする。	銀行は預金者から集めた資金を、資金を必要とする企業や個人に貸し出すことで仲介役を果たします。この際、企業などから受け取る「貸し出し利子率」を、預金者に支払う「預金利子率」よりも高く設定することで、その差額である「利ざや」を主な利益の源泉としています。これが銀行の経営を支える基本的な仕組みです。